陸上自衛隊 第1対戦車ヘリコプター隊

第1対戦車ヘリコプター隊 隊長

二等陸佐 横川 文彦

第1対戦車ヘリコプター隊は、「撃つ」機能を保有した対戦車ヘリコプター「AH-1Sコブラ」を主力装備する陸上自衛隊初の部隊として、北海道帯広駐屯地に創隊されました。

北海道で唯一のヘリコプター火力戦闘部隊として、夏季は海霧、冬季は酷寒の気象状況を克服して北海道の広い大空において飛行任務を遂行しています。

勇猛で鋭い牙（武装）を持つコブラ（AH-1S）を自在に操り、与えられた任務を完遂するため、航空安全を確保しつつ、厳しい環境下においても強い使命感をもって知恵を出し合い、汗を流して部隊一丸となって訓練しています。

これからも、「戦う陸上航空の先駆け部隊」としての誇りを堅持して、「先駆け」から「魁」へ成長し、信頼される部隊を目指して前へ進みたいと思います。

第1対戦車ヘリコプター隊の勇者たち

第1対戦車ヘリコプター隊に絡むネタ！

帯広駐屯地正門

十勝飛行場

1 第1対戦車ヘリコプター隊は、陸上自衛隊で初めて創られた対戦車ヘリコプター隊であり、対戦車ヘリコプター隊は、各方面に1つずつ配備されている。第1対戦車ヘリコプター隊は帯広駐屯地に、第2対戦車ヘリコプター隊は八戸駐屯地に、第3対戦車ヘリコプター隊は目達原駐屯地に、第4対戦車ヘリコプター隊は木更津駐屯地に、第5対戦車ヘリコプター隊は、明野駐屯地に所在している。

2 第1対戦車ヘリコプター隊は第5旅団司令部のある帯広駐屯地に所在している。帯広駐屯地に所在はしているが、上級部隊は北部方面航空隊で北部方面航空隊は丘珠駐屯地（札幌市）に所在し、北部方面航空隊は北部方面隊直轄部隊で北部方面隊は札幌駐屯地に所在している。

とても広い教習所

学生と99式自走155mmりゅう弾砲

第5旅団司令部庁舎　上の円盤は回らない、飾り

徒手格闘訓練中

第5旅団レンジャー教育隊庁舎

交戦訓練用装置倉庫全景

3 第1対戦車ヘリコプター隊が使用している十勝飛行場の施設管理責任者は帯広駐屯地業務隊長で、十勝飛行場の運用責任者は第1対戦車ヘリコプター隊隊長である。

4 第1対戦車ヘリコプター隊が使用している十勝飛行場は、昭和56年まで帯広飛行場として官民共有の飛行場だった。帯広空港が現在の場所へ移転（帯広駐屯地より約18km南方向へ）したため十勝飛行場として自衛隊の飛行場となった。その際に一緒に移転した航空大学校の建物は現在第5飛行隊が使用している。

5 十勝飛行場を使用する第5飛行隊もヘリコプター部隊だが、第5旅団隷下のヘリ部隊であり、第1対戦車ヘリコプター隊とは別の部隊である。

航空大学校の後に入っている第5旅団第5飛行隊

飛行場側にある連絡所

タワーで管制業務中

地上誘導装置内で誘導中

第1対戦車ヘリコプター隊

昭和60年	編成準備隊発足（人員63名）
昭和61年	第1対戦車ヘリコプター隊編成完結（全国）
平成4年	米国における射撃訓練参加（ハワイ州）
平成10年	米国における射撃訓練参加（ワシントン州）
平成12年	有珠山噴火に伴う災害派遣（OH-6×2）
平成14年	国産発の観測ヘリOH-1導入
平成15年	米国における射撃訓練参加（ワシントン州）
平成17年	富士総合火力演習参加
平成18年	米国における射撃訓練参加（ワシントン州）
平成20年	洞爺湖サミット支援（AH-1S×2）
平成22年	総合戦闘力演習
平成23年	東日本大震災に伴う災害派遣
平成24年	米国における射撃訓練参加（ワシントン州）
平成28年	富士総合火力演習参加
平成30年	創隊32周年

十勝飛行場と帯広駐屯地

昭和12年	川西村別府高台（現在の帯広駐屯地）に陸軍飛行場建設開始
昭和15年	帯広第一飛行場または十勝國稲田飛行場と呼ばれていた
	陸軍飛行隊創設　民間飛行場に陸軍帯広第1飛行場創設
	北部73部隊が浜松から付属部隊とともに移駐　飛行第62戦隊（重爆撃機）が母港として活躍
昭和18年	陸軍飛行第1師団が浜松より移駐　第5・第20飛行団配置
	第7師団司令部が旭川から移駐
昭和19年	第38独立飛行隊配置
昭和21年	進駐軍が滑走路を破壊　溝が入れられ滑走不能に
昭和26年	警察予備隊帯広駐屯地として創設
昭和29年	第5管区総監部等設置　第5管区飛行隊（第5飛行隊）編成　誘導路を滑走路として使用　防衛庁・自衛隊発足　6／30に陸上自衛隊「帯広駐屯地」となる
昭和31年	滑走路の第1次補修、陸上自衛隊帯広駐屯地飛行場として運用開始
昭和37年	第5管区隊が第5師団に改編
昭和39年	民間共用の帯広飛行場として開港　札幌～帯広～釧路間の定期便就航
昭和41年	帯広～羽田便就航
昭和46年	滑走路延長1500mに
昭和56年	帯広空港が別地に移転　そのため「十勝飛行場」として防衛庁告示
昭和58年	第5飛行隊　滑走路を渡った現在地へ移動
昭和61年	第1対戦車ヘリコプター隊創隊（陸上自衛隊初）
平成6年	足寄分屯地開設
平成16年	滑走路等飛行場施設全面改修　第5師団から第5旅団に改編
平成23年	第5旅団改編・方面混成団新編

北部方面管制気象隊　第2派遣隊

飛行場を使用するには、管制気象がなくては何も始まらない。言わずもがなだが、航空管制・航空気象と航空機の運用支援などが主任務である。タワーは低め、周りに高い建物がないからだとか…。勤務員は「一機入魂」を胸に日々航空安全のために魂を込めて任務に就いている。

移動気象観測装置（M4）及び可搬型気象観測装置（TACMET）のモニター

衛星受画装置

可搬型気象観測装置（TACMET）

帯広駐屯地所在部隊

方面直轄部隊

第1対戦車ヘリコプター隊
第52普通科連隊第3中隊
北部方面管制気象隊第2派遣隊
第302基地通信中隊
第121地区警務隊
北部情報保全隊
帯広情報保全派遣隊
第374会計隊
第101輸送業務隊
第3端末地業務班
帯広駐屯地業務隊

5旅団隷下部隊

第5旅団司令部・司令部付隊
第4普通科連隊
第5特科隊
第5後方支援隊
第5高射特科中隊
第5施設隊
第5通信隊
第5飛行隊
第5化学防護隊
第5音楽隊

OH-6を見られるのもあとわずか？

消防車　飛行場には消防車と消火器は必需品

心を込めて整備、真剣な眼差しの中に愛情も

平成28年富士総合火力演習（夜間射撃）で使用した標的

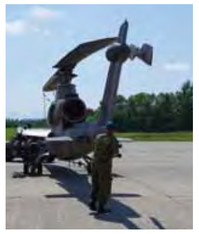
整理整頓

整然と格納されたAH-1。手前・C-NETE　奥・LAAT

格納庫に戻るOH-6

コブラ前席のシミュレーター

シミュレーター外観



格納庫に戻るAH-1

平成30年度 北部方面隊総合戦闘力演習（30北演）に参加

30北演とは、北部方面隊の最重要演習で、人員約11,700名・車両約3,300両・航空機約10機・艦艇2隻が参加。演習場や駐屯地の他、道内全域を活用して行う大規模な演習で、8月22日から9月5日まで行われた。総合戦闘力を最大限に発揮して、各種事態に対処する能力向上を目的としている。

編成完結式

偽装を実施中のAH-1

偽装をして展開地進入を待つ車両

訓練前に隊員の状況を確認

航空機への弾薬を搭載

航空機の係留点準備

おいしいごはんを作る隊員

9月6日からの「北海道胆振東部地震」における災害派遣活動に心から敬意を表しますとともに、被災された方々へ心よりお見舞いを申し上げます。（編集部）